

日中古典教育における関連教材の比較

岡山大学 土屋 聡

※関連教材とは

ここでは、教科書本文と関連のある補助的・発展的な教材や既習教材を指す。例えば、同じ書籍の中における教科書本文以外の章段、同じ作者の他の作品、異なる作者の類似作品、後世の批評・注釈・翻案などを指す。本発表ではそれらを利用した課題を調査対象とする。

【資料 1】 ※傍線, 引用者。以下, 同。

具体的には、原文と対比できるよう現代語訳などを取り上げたり、原文の前後を現代語訳などで補ったり、原文と同一の文種や形態に属する他の文章や作品を現代語訳などで取り上げたりすることなどが考えられる。 (H22 年『高等学校学習指導要領解説 国語編』国語総合 35 頁)

【資料 2】

例えば、近代以降の小説の中には、古典の説話や中国の伝奇小説を基にしたものもあり、小説とその典拠と比較しながら読むことによって、より内容の解釈を深めることができる。他の作品などとの関係を踏まえるとは、このように、対象とした作品や文章と関係のある他の作品を読み、両者の関係を理解した上で対象とした作品や文章の内容の解釈に向かうことである。 (H30 年『高等学校学習指導要領解説 国語編』言語文化 130 頁)

【資料 3】

他の作品などとは、同じ時代に書かれた他の作品や、同じ題材やテーマをもつ異なる時代に書かれた他の作品のことである。作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえる必要があるのは、成立の背景に着目することで、作品の内容の解釈を深めることが可能になることが多いためである。また、古典の作品は、他の作品を踏まえて成立することも多いため、作品や文章との関係を押さえることが必要となる。 (同上 古典探究 261 頁)

【資料 4】

- 高中 教材 29 篇：暗誦・朗読（19 篇），文語文の単語・構文（13 篇），関連教材（12 篇）
- 初中 教材 29 篇：暗誦・朗読（25 篇），文語文の単語・構文（19 篇），関連教材（15 篇）

【資料 5】

以上はその一部であるが、関連教材というものが本文の理解を踏まえた上でさらなる能力・学力の向上を企図するものであると見ることができる。これは、言わば、教科書本文から

出発して学習者をその外側へと導く役割と考えられる。

しかし、実際に関連教材の利用のあり方を見てゆくと、必ずしもこの役割のみに限定されないものがある。というのも、他ならぬ「燭之武退秦師」の課題「三」の設問意図について、『教師教学用書』第1冊では「本題意在讓學生進一步探討課文內容（この課題の意図は生徒に教科書本文の内容をさらに探究させるところにある）」としており、本文のより深い読解を志向したものと考えられるためである。こちらの場合は、学習者を本文に回帰させる役割と言えよう。（土屋聡「中国の古典教育における関連教材の意義について」、『教育実践学論集』第22号、2021年）

【資料6】 范仲淹「岳陽樓記」（九年級上冊）※日本語訳、引用者。以下、同。

岳陽樓是江南名樓，古往今來，無數文人登臨攬勝，留下了許多名篇佳作。如李白「與夏十二登岳陽樓」，杜甫「登岳陽樓」，陳與義「登岳陽樓」等。找這些詩來讀一讀，体会其中的思想感情。

岳陽樓は江南の名樓であり、古來、無數の文人が登樓して景色を楽しみ、多くの優れた作品を残した。例えば李白「與夏十二登岳陽樓」，杜甫「登岳陽樓」，陳與義「登岳陽樓」等である。これらの詩を探して読み、その中の思想や感情を感じ取りなさい。（教育部組織編著『義務教育教科書 語文』九年級上冊，人民教育出版社，2018年。2019年第1次印刷 47頁）

※ [設計意図] 拓展閱讀写岳陽樓的著名詩篇，了解古代詩人筆下的岳陽之景・洞底情懷。
岳陽樓を描いた有名な詩歌に読書の幅を拡大して読ませ、古代の詩人が描いた岳陽・洞底湖の景色や心情を理解させる。

（『義務教育教科書 語文 教師教学用書』九年級上冊，人民教育出版社，2018年。2019年第2次印刷 109頁）

【資料7】 王維「使至塞上」（八年級上冊「唐詩五首」）

「使至塞上」的頸聯被譽為「獨絕千古」，清人黃培芳認為其妙處在於「『直』『円』二字極錘煉，亦極自然」。爾怎麼理解這一說法。爾覺得這兩句詩好在哪里。

「使至塞上」の頸聯は「獨絕千古」と称されており、清の黃培芳は「『直』『円』の二字は極めて練られたものであり、また極めて自然なものでもある」と考えている。あなたはこの説明をどのように理解しますか。この二句はどこがよいと思いますか。

（教育部組織編著『義務教育教科書 語文』八年級上冊，人民教育出版社，2017年。2021年第5次印刷 63頁）

※王維「使至塞上」詩本文 ※訓読、引用者。以下、同。

單車欲問邊，屬國過居延	單車 邊を問はんと欲し，屬國 居延を過ぐ。
征蓬出漢塞，歸雁入胡天	征蓬 漢塞を出で，歸雁 胡天に入る。
大漠孤煙直，長河落日圓	大漠 孤煙 直く，長河 落日 円かなり。
蕭關逢候騎，都護在燕然	蕭關 候騎に逢へば，都護 燕然に在りと。

※後人による重要ポイントの指摘を取り上げる課題は、初中「陶淵明『飲酒』其五」（八年級上冊「詩詞五首」），高中「登高」（第3冊「杜甫詩三首」）にもある。

【資料 8】韓愈「馬説」（八年級下冊）

閱讀下面的短文，結合課文，写一段文字，談談爾對人才問題的看法。不少於 300 字。

次の文を読み，教科書本文と組みあわせて，文章を書き，人材問題に対するあなたの見方を話しなさい。300 字以上。

上令封德彝舉賢，久無所舉。上詰之，對曰，「非不尽心，但於今未有奇才耳」。上曰，「君子用人如器，各取所長，古之致治者，豈借才於異代乎。正患己不能知，安可誣一世之人」。德彝慚而退。
(『資治通鑑』卷一九二 唐紀八 貞觀元年)

上(太宗) 封德彝をして賢を挙げしむるも，久しく挙ぐる所無し。上 これを詰む。對へて曰はく，「心を尽くさざるには非ず，但だ今に於て未だ奇才有らざるのみ」と。上 曰はく，「君子 人を用いること器の如くし，各おの長ずる所を取る。古の治を致す者，豈に才を異代に借らんや。正だ己れの知る能はざるを患ふるのみ，安んぞ一世の人を誣ふべけん」と。德彝 慚ちて退く。

(教育部組織編著『義務教育教科書 語文』八年級下冊，人民教育出版社，2017 年。2020 年第 4 次印刷 123 頁)

※ [設計意図] 引導學生通過相關拓展閱讀，深入理解課文觀點，并提出自己的看法。

生徒が関連する発展的な読書を通じて，教科書本文の觀點を深く理解し，また自分の見方を提出するように指導する。

(『義務教育教科書 教師教学用書』八年級下冊，人民教育出版社，2017 年。2019 年第 3 次印刷 332 頁)

※関連する文章を参考にして教科書本文の觀點や趣旨を考えさせる課題は，初中「桃花源記」（八年級上冊），高中「燭之武退秦師（『左伝』）」（第 1 冊），「赤壁賦」（第 3 冊）にもある。

【資料 9】杜甫「春望」（八年級上冊「詩詞五首」）

「春望」と「月夜」都是杜詩中的名作，也都作於杜甫困居長安期間。閱讀・理解這兩首詩，比較牠們在思想感情和写作手法上各有甚麼異同。（「月夜」詩を注釈付きで提示）

「春望」と「月夜」とは杜詩の名作であり，どちらも杜甫が長安に捕らわれていた期間に作られたものである。この二首の詩を読んで理解し，思想・感情や制作手法の上でどのような異同があるか比較しなさい。

(教育部組織編著『義務教育教科書 語文』八年級上冊，人民教育出版社，2017 年。2021 年第 5 次印刷 149 頁)

※ [設計意図] 引導學生擴展視野，通過比較閱讀，欣賞杜甫同一時期的經典詩作，并學習對比閱讀古詩的方法。

生徒が視野を広げ，比較して読むことを通じて，杜甫の同一時期の代表作を鑑賞し，また対比的に古詩を読む方法を学ぶように指導する。（『義務教育教科書 教師教学用書』八年級上冊，人民教育出版社，2017 年。2020 年第 6 次印刷 365 頁）

※比較させる課題は，初中「小石潭記」（八年級下冊），高中「蘇軾詞二首」（第 4 冊），「滕王閣序」（第 5 冊）にもある。

【資料 10】杜甫「登岳陽樓」，白居易「香炉峰下新卜山居，草堂初成，東壁偶題」

「登岳陽樓」・「香炉峰下新卜山居，草堂初成，東壁偶題」の二首の詩について，杜甫と白居易

易は、それぞれどのような境遇にあり、どのような心情を表現しようとしているか、比較しながら話し合ってみよう。(明治書院 新精選古典B 漢文編 2017年2月検定済 2018年1月 27頁)

【資料11】李白「春夜宴桃李園序」

この文章の冒頭部分と、次の松尾芭蕉『奥の細道』の冒頭部分とを読み比べてみよう。
月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。

(教育出版 精選古典B 漢文編 2017年2月検定済 2018年1月 53頁)

【資料12】沈既濟『枕中記』

『黄梁夢』を読んで、芥川はどのような考えを主張しているのか、『枕中記』と比較してみよう。(第一学習社 高等学校改訂版古典B 漢文編 2017年2月検定済 2018年2月 56頁)

【資料13】白居易「長恨歌」

次の和歌は「長恨歌」をふまえたものである。それぞれの和歌の意味を考えてみよう。

(1) 生きての世 死にての後の 後の世も 羽を交はせる 鳥となりなむ (『大鏡』左大臣師尹)

(2) たづねゆく まぼろしもがな ^{つて}伝^{たま}にても 魂のありかを そこと知るべく (『源氏物語』桐壺)

(教育出版 精選古典B 漢文編 2017年2月検定済 2018年1月 123頁)

【資料14】

オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。

……また、我が国の言語、文学、思想などは、近世までの歴史においては、特に中国から強い影響を受けつつ独自の発展を遂げてきた。漢文を古典として学ぶことの理由は、このような影響を学ぶ点にもある。そこで、教材として、中国の漢文だけではなく、その影響を受けて日本人がつくった漢文も取り上げ、我が国の文化と中国の文化との関係について考えることは、我が国の伝統と文化を理解することに資するものとなる。

(H22年『高等学校学習指導要領解説 国語編』古典B 70頁)

【資料15】まとめ

	中 国	日 本
発展系の関連教材	読書の幅を広げる	読書の幅を広げる (日本文学)
回帰系の関連教材	本文の理解 (指摘・参考・比較)	本文の理解 (比較)